

バンクーバー物語第2話

Tail of Vancouver-The 2nd Story

作

邑仲宙道

Centrovillle Pathman

起稿 2025年03月12日

完稿 2025年03月22日

①アタイは“ドロのおシャミ”っていうケチなネコさ。泥の中で拾われ、今はバンクーバーって街に移った大ネコ家族に世話させている。アタイには弟分のボロンというヤンキーネコがいる。ボロンは寝てばかりで役に立たない奴だけど、アタイは気にいっているよ。アタイとボロンは故あって動物互助同盟クープの会長と副会長をしている。会員はバンクーバーだけで3万くらいになっている。アタイらは動物にだけある心の交信法“テレボイス”で互いに意思の疎通ができる。もっとも大ネコはこの能力を失って日本語だの英語だのとややこしい言葉で意思の交流をしているけど、こんな言葉、信用できるもんじゃないよ。大ネコたちは長年この方法でやってきたので、動物に比べて自分らの方が高等だと自負している。けど、テレボイスに比べ不完全な交信手段だから、騙し誤り^{だま} 唆し^{あやま} 嘲し^{そそのか} 嘲り^{あざけ}などで争いの種を蒔いていることに気づかないのかね。

②アタイの世話役家族もバンクーバーの生活に馴染み、大ネコ母さんも無事、病院に就職し当初の目標を達成。大ネコ譲さんも元気で、小学校に通っている。最初は「学校行きたくない。」ってぶつぶつ言っていたけど、今は怖がってた先生にも愛着を感じてる。それに色々な出身国の友達もでき毎日を楽しんでいるよ。大ネコ母さんは活発だから友達との輪は広がる一方。大ネコ父さんはパソコンと向き合い、相変わらず居眠りしながら『バンクーバー物語』っていうくだらない物語を書いている。大ネコ譲さんの送り迎えで外出しても、ほとんど家に閉じこもり状態。時々、カナダに住む日本人の電話相談^{あんこ}をしているようだけど。まあ、欲のない大ネコおやじだから、相談料をもらわずに好物の餡子^{あんこ}もらって喜んでいる。

③ネコ好き同士は何か通じ合うものがあるのかね。大ネコ母さんの友達にもネコ好きが多い。世話役の勝手な留守中、ネコ好きたちが世話役を代わってくれる。ありがたいことだね。でもね、代わってくれる大ネコたちがいるからといって、世話役どもよ、あまりいい気になるなよ。大ネコの義務、ちゃんと復習しときな。そういえば、一度、ネコ好きの大ネコ家族に預けられたことがあった。家の様子もアタイらの可愛がり方も違うので、最初は戸惑ったさ。特にボロンはビビリまくってベッドの下に隠れてどうしようもなかった。ここんところは愛想してなんぼの世界だよ。アタイは親善大使になったつもりで愛嬌振りまいたさ。ところが暖かい乾燥機の上で気持ちよく居眠りして気付いたら壁と下の洗濯機の間にはまっていた。アタイも慌てたさ。隙間から出られないじゃないか。大声で大ネコを呼ぶしかなかった。すぐに大ネコたちが来たけど、乾燥機と洗濯機が重くて動かない。そこに日本からきた大ネコ父さんが、怪力を出してアタイを出してくれた。本当に命拾いしたさ。世話役ども、この有難い大ネコご家族を少しは見習っておくれ。もっとも日本では何度か命拾いする出来事があって助けてくれたけどね。

④アタイたちネコ族には大ネコの知らない秘密がある。その一つはキャットトンネル。聞いたことないだろう。そりゃそうさ。ネコにとって大切な秘密だからね。大ネコたちがネコを追っかけて藪の中に隠れてしまうと、大ネコがどんなに探してもネコを見つけるこ

とができない。ネコは隠れ上手と思われているけど、それがキャットトンネルさ。キャットトンネルは、言ってみれば時間のトンネル、自分の行きたい時代に行ける。違う時代に突然、ネコが現れることになるので、大ネコたちは気味悪がって化け猫騒動にすり替えちまう。これもネコの特異能力の一つ。大ネコにも他の動物にも真似はできやしないよ。だからね、ネコの群れの中には昔のネコ、今のネコ、未来のネコが入り混じっているんだ。アタイたちにも昔ネコか未来ネコか区別つかないよ。誰もそれを問いたださないのがネコの作法さ。

⑤もう一つ、アタイたちには秘密がある。それはネックロック。日本には「首根っこを押さえる」という言葉があるけど、この意味だよ。ネコは首根っこをつかまれると身動きできなくなるのさ。赤ん坊のころ母さんネコが子ネコの首根っこを銜くわえて歩くけど、銜はまられている間、子ネコはおとなしくしているのはそのため。ところで、大ネコ父さんが填はまっているスター・トレックとかいうSFにへんてこなバルカン星人が出てくる。その一人がミスター・スポック、アタイらのようなエレガントな耳を持って、表情もクールでアタイはお気に入りだよ。ミスター・スポックは敵の首根っこを掴んで気絶させることができる。この技、アタイらのネックロックを研究して生まれたのかもね。このネックロックのことは大ネコには秘密にしておくれ。大ネコたちの中には悪用してアタイたちを困らせるものもいるからね。ネコの秘密を、特別に教えてあげたのはあんたを信じているからさ。アタイを裏切ったら承知しないよ。

⑥生活が安定してくると、アタイはこれからのことが心配になってきた。突然のバンクーバー生活、動物互助同盟クープの創設と会長就任、アタイはどれも想像していなかったことだよ。そこでアタイはボロンを誘って、2030年のバンクーバーを見ようとキャットトンネルを通ったのさ。バンクーバーはやたらとビルが増えてたよ。大部分はコンドミニウムのようなものだ。空を飛んでいる車もあった。5年経つとそれなりに変わるものだね。大ネコの身なりも今よりは小奇麗になってたけど、よくわからないファッションで女も男も粋がってた。まあいつの時代でも大ネコのすることは知れてるね。びっくりしたのは、お隣のアメリカの国旗がやたらと増えて、街のいたるところで見られた。アメリカとカナダはこんなにも仲良くなったのかね。アタイらの時代ではアメリカのスランプ大統領が関税をどうとかすると言ってギクシャクしていたけど、時代って変わるものだね。

⑦そこで裏街のネコたちに事情を聴いてみた。彼らの話だとカナダは無くなったとのこと。アタイとボロンは腰を抜かした。なくなった...？さらに街の連中に詳しく話を聞くと、カナダはアメリカの一部になったとのこと。そんな...！街のチンピラネコに聞いてみても埒らちが明かないので物知りのフクロウに聞いてみることにした。前に行ったことのある公園の大きな樹にフクロウのアレック博士が住んでいる。アタイはアレック博士に事の次第を尋ねた。ボロンはいつも通りボケっとしているので、「ボロン、何か聞きたいことないかい？」と親切に声をかけてやった。そしたら「この辺りでうまいものはどこ？」って

とぼけたこと聞き始めた。アタイはボロンの口を封じて「このボンボンのことは気にせんといて。」と博士に断った。

⑧アレック博士の話だとこんな風だ。アメリカのスランプ大統領はアメリカ一等主義を掲げて、カナダとメキシコに関税騒動を起こした。すったもんだの末、カナダとメキシコはアメリカの強引さに折れて、アメリカと合併することに同意した。カナダやメキシコはアメリカの50州とは格が違うため、州 **state** の代わりに国 **nation** を使うことになった。その後、グリーンランドも加わり、アメリカ合衆国はカナダ、メキシコ、グリーンランドの3国に従来の50州で構成されることになった。そうすると北アメリカは全て合衆国に所属し、飛び地だったアラスカとも陸続きになった。ロシアのサンクト-ペテルブルクやモスクワは北極を挟んで目と鼻の先になり、これでロシアへの目配りもしやすくなった。

⑨一方、ロシアのプーチン大統領はウクライナを併合してロシア領土を広げた。欧州はNATTOを中心に団結を強め、中国のシチュー・キンピラ主席は台湾と北朝鮮に侵攻し、さらに近隣諸国に圧力をかけて領土拡大を図っている。アフリカ諸国、インド、東南アジア、日本、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、中南米は一応中立の立場をとっている。このような勢力図から、北半球では北米、欧州、ロシア、中国が中軸となり、主に南半球に中立的な諸国が存在している。さらに言えば、北米・欧州勢力とロシア・中国勢力が均衡をとって、中立諸国はこの天秤の上で踊ってる、というのがアレック博士の説明だった。アタイは話の半分しかわからなかったけど、ボロンは1割でも理解できていれば本当に上出来だよ。

⑩とりあえずアタイら動物集団は大ネコたちの勝手な陣取り合戦に振り回されることなく、国境なき地球を再建すべきと、なんとなく思えてきた。ボロンの意見を聞いても無駄だと思うけど、立場上、ボロンにも意見を聞いてみた。すると、猛獣が獲物を追っかけて地球上を駆け巡ることができれば、大ネコたちは陣取り合戦などしてる暇はない、とのご意見だった。今更、肉食だの草食だのと古臭い考えに呆れたけど、動物たちが大ネコどもにとって無視できない存在になれば確かに陣取り合戦で遊んでいるわけにはいかなくなる。例えばさ、兄貴ネコのライオンが街中を歩き回ってたら、大ネコたちは領土争いにうつつを抜かすわけにはいかないさ。

⑪アタイとボロンは5年後の世界を覗いて、「恐れ入りやの鬼子母神、桑原桑原、尾っぽ巻き巻き」逃げ帰った。5年後の恐ろしい事態を避けるため、アタイたちに今、何ができるか考えなきゃ。アタイ一人じゃあ、何もできないけど、アタイらには互助同盟クープがある。今やクープは世界中に広がり、数えきれないほどの動物が参加している。クープは、高が動物の仲良しクラブなどと、甘く見ないでおくれ。例えば、クープ連絡網、これはすごいよ。テレボイスでハトやカモメに伝言を出すと3日のうちに地球一周してくる。しかもテレボイスの伝達は正確そのもの、大ネコの言葉とは訳が違う。その上、情報収集

は、空からも地上からも地下からもできる。大ネコたちがどれほど嚴重に隠している秘密でも、アタイらには全てお見通しだよ。

⑫アタイはさんざん悩んだ挙句、世直し作戦会議を開くことにした。会議でアタイとボロンが5年後の世界を説明して、大ネコたちの狂った世界をどうやって修正するか、という議論に入った。大ネコたちが競い合う理由は自国の繁栄とそれを成し遂げた我が支配への服従だろう、と皆は考えていた。その対策として過激派ライオンは支配者を嘔み殺せと訴えた。穏健派の馬は、動物たちが協力して農産物を増産して国を富ませと提案した。陰険派のハイエナは国のお宝を盗んで戦争ができないほどの貧乏国にしたらとつぶやいた。健全派のゴリラは大国のミサイルを破壊して攻撃能力を奪ってはと静かに話した。その他にも様々な意見がでたが、大方は健全派の意見に近かった。

⑬話し合いの結果、健全派の意見が採用になった。そこでこの路線に従って戦略を立てるため、作戦本部のメンバーをクープ評議員の中から選ぶことになった。本部長はアタイ、副部長はボロン、参謀はゴリラのキング、副参謀はライオンのナイル、実行隊長はクマのベア彦、など総勢10名。最初の作戦は主要大国アメリカ、ロシア、中国、NATTOのミサイル基地を見つけることで、この偵察にはカモメのジョナやカラスのクロッキーが適任だった。世界中にいるジョナやクロッキーの仲間に連絡して調査に当たらせることになった。このミッションには渡り鳥の連中が大いに活躍した。

⑭カモメやカラスの仲間は主要大国の空を日々飛び回っているのだから、どこで何が起きているのかよく知っている。そこでジョナとクロッキーは各支部の仲間に連絡を取り情報を集めた。3日が過ぎ、次々と各地から情報が集まってきた。公園の広い芝生にモグラたちがトンネルで描いた世界地図に、この情報に基づいてカラスたちが小石をプロットしていった。なんと小石の山ができるほどミサイル基地の多いことにアタイたちは嘖然としたよ。大ネコどもは互いに殺し合って絶滅するのは勝手だけど、アタイ達まともな動物まで巻き添えにするんじゃないよ。主要国のミサイル発射場をつぶすことにクープの連中の意気は一気に燃えあがった。

⑮手始めに、リスのボンタとネズミのチュータにミサイル発射場近くに住む仲間に連絡をとってもらうことにした。発射場の位置を調べ、モグラたちが発射筒までトンネルを掘る。カラスのクロッキーは世界中の仲間に伝達して、工事現場や戦場からダイナマイトと起爆装置を集め、ネズミたちとモグラたちはダイナマイトをトンネルに埋める。サルたちは発射場毎に起爆装置を設置して予定の爆破時刻まで待機する。サルたちとはあまり仲が良くないけど、イヌたちがサルたちの護衛をする。時差を考慮した爆破時刻に世界一斉で点火する。ハト、トンビ、タカ、ハヤブサたちの偵察隊が担当の発射場に向けて飛び立ち爆破状況について情報を収集する、というものだった。

⑩そして某年某月某日某時某分にミサイル基地爆破計画が実行された。世界同時テロだったので、主要大国は対立国の責任にすることもできず、各国政府は混乱に陥った。さらに残っている核ミサイルをなんとか保全しようと各国は右往左往していると偵察隊から報告があった。アタイらのテロで世界の核ミサイル基地の6割が使用不能になり、3割は十分な整備や修理をしても、使用には細心の注意を払わなければならなくなった。もはや核による威嚇行動は無意味になった。しかも秘密にされていたミサイル基地の所在が明らかになり、国民に向けて新たな釈明が必要になった。ミサイルシステムの再建には莫大な予算を必要とするため国民の同意を得るのは不可能だった。こうして動物互助同盟クープは核戦争の脅威を取り除くことに成功し、核なき時代で大ネコと動物たちが共同して平和を達成することが次の課題になった、というわけさ。

⑪こうしてアタイたちの世界同時爆弾テロは成功した。アタイはできるだけテロの被害が少ないことを願ったけど、カモメやカラスたちの報告では怪我をした大ネコや亡くなった大ネコが少なからずいたとのこと。本当に、本当に、本当に、ご本人にもご家族の方にも心からお詫びするよ。アタイは無血テロなど存在しえないことを痛いほど実感した。やはりテロはどれほど手を尽くしても正当な抗議手段にはならない！アタイはテロ以外の方法をもっと考慮すべきだったと深く反省している。でも結果として、地球壊滅をもたらす世界大戦を防げたことで、このテロを称賛する声が世界中で湧きあがったよ。アタイは複雑な気持ちでカモメやカラスの報告を聞いていた。隣で報告を聞いていたボロンはいつの間にか鼾をかいて寝ている。どうしようもないね。

⑫バンクーバー市議会はこの行動を起こしたのはアタイたちだと気付いていた。それは動物収容キャンプの事件で、テレボイスを使える大ネコたちが知らせたのだと思う。テレボイスを使える大ネコたちをこれからはスーパー大ネコと呼ぶことにした。そこで市議会はアタイたちとスーパー大ネコたちを招聘して事の成り行きについて説明するよう要請してきた。アタイとボロンはクープ代表として、さらにスーパー大ネコ3名が通訳として参加した。アタイ達の説明を聞いた大部分の議員は半信半疑だったと思うけど、数名の議員はスーパー大ネコの素質があり、彼らはアタイたちの話を信じてくれた。アタイたちの行動は最終戦争を回避することに功績があったと市議会は評価して、アタイたちを特別顧問として市行政に参加させることになった。

⑬議論を重ね、バンクーバー市は大きく変革することになった。つまり動物たちと大ネコたちが共同でこの街を統治することになった。そして「自由都市バンクーバー」という名称が正式に決まった。自由都市って何のことだって。それは居住、移動、教育、労働、医療などの自由権を大ネコと同等に動物にも与えるという、画期的な都市。こんな自由都市は世界中探したってありゃしないよ。アタイたちネコ族だけでなく、他の動物たちにとっても画期的なことだ。ただ問題は兄貴ネコのような猛獣の中に、大ネコをご馳走と思う心得違いがいることだよ。自由の保証には義務がある。大ネコと共存するためには、互い

に捕食しないという約束が必要だ。大ネコだって、例えばウシやブタ、他にニワトリなどを食べ物にしている。だから大ネコも動物を食わないという約束が必要。少なくとも自由都市内では輸入肉か人造肉のみの販売を認め、大ネコも動物もこれを利用することが前提だよ。自由都市で暮らすには協定を守ることが基本だ。守れないものは自由都市から出ておゆき。

⑳自由都市がどんなものかアタイたち家ネコで説明するよ。居住権はね、決まった世話役の大ネコの下で家ネコはこれまで暮らしてきたけど、自由に他の大ネコの家に移って暮らせる権利さ。ただしネコを嫌う大ネコは拒否できるよ。次の移動権とは、アタイ達は公共の乗り物を自由に使って世界どこへでも移動できる権利さ。勿論、飛行機の荷物室じゃあなくて、アタイ達は客室に乗れる。3番目の教育権はね、自分の学力に応じて好きな学年から無料で授業を受けられる権利。併せてスーパー大ネコは講師にもなれる。この場合、受講者は動物かスーパー大ネコだけになるけど。4番目の労働権は、アタイ達も自由に仕事を選べる権利があるということ。例えば商品のデリバリーをするとか、店番をするとか。当然だけど、相応な給料はもらうよ。最後の医療権は、アタイたちが病気やけがをしたときに無料で医療を受けられる権利。これらの自由権を大ネコや動物たちが平等に獲得して、自由都市バンクーバーは世界に範となる街に成長することになったのさ。自由都市バンクーバーの旗には、お恥ずかしながらアタイとボロンの姿が描かれているよ。



㉑こうしてアタイたちの自由都市バンクーバーが誕生したってわけさ。自由都市を観光するときには、動物たちが街中を闊歩しているけど、蹴とぼしたり追っ払ったりしてはいけないよ。できたら優しくして欲しい。殊にライオンやトラが近くに来ると、大ネコは本

能的に恐れて逃げ出すかもしれないけど、自由都市で暮らすライオンやトラは決して大ネコを襲ったりはしないので、頭や肩をなでて欲しい。そうすると彼らも優しく手を舐めてくれ、スリスリしてくれるよ。そして動物も大ネコも自由都市の自由を楽しんでほしい。本当の自由は気ままではなく、節度の中にあることを体験できると思うよ。<おしまい>